

明治大学・川崎市 黒川地域連携協議会

第1回 里地里山保全利活用専門部会

平成26年6月2日（月）14:00～16:00
明治大学黒川農場 本館1階 1-102会議室

次 第

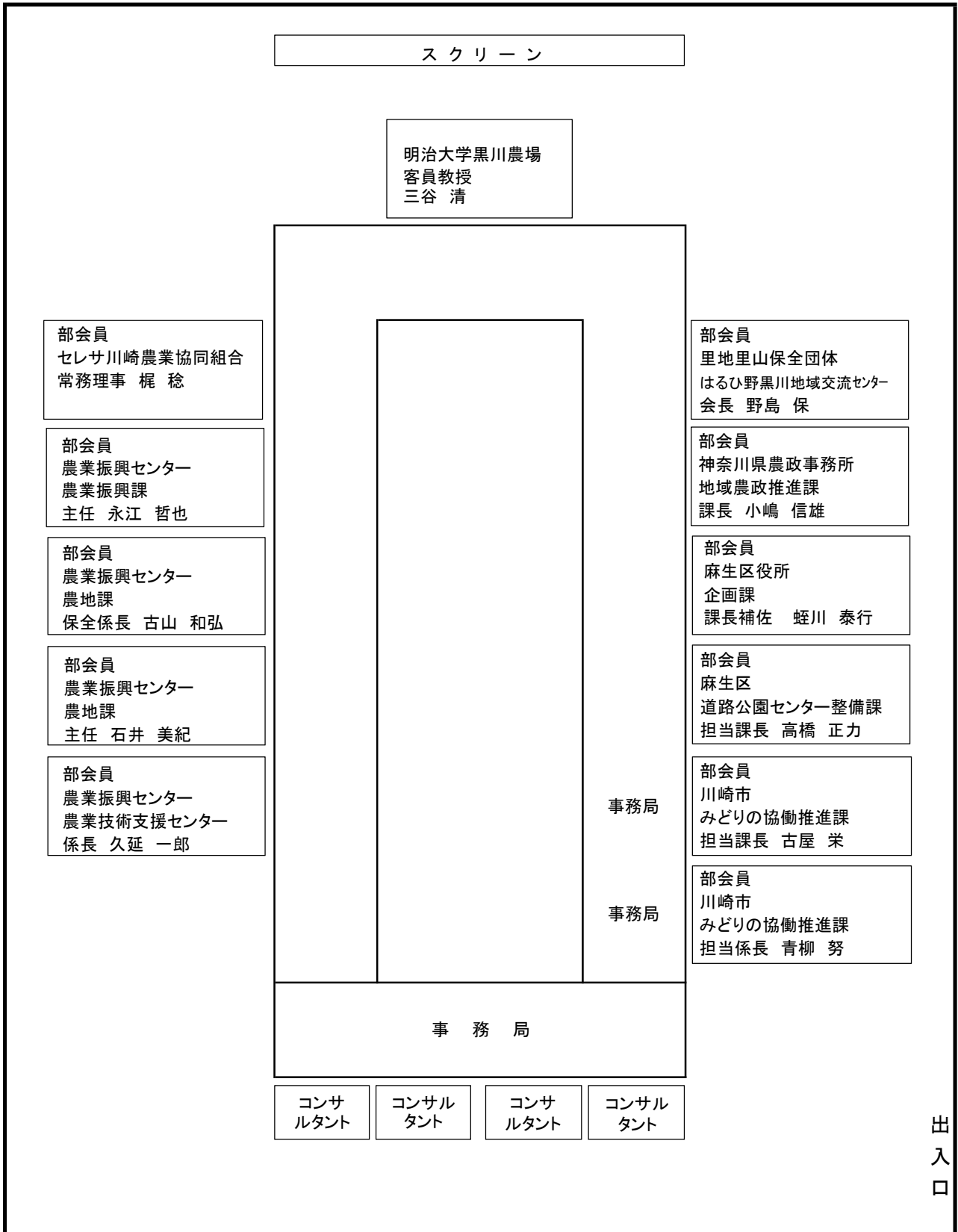
- 1.開会のあいさつ
- 2.メンバーの紹介
- 3.座長の選任
- 4.座長からのあいさつ
- 5.専門部会の方向性と今後の取組みについて
 - ・専門部会の方向性について
 - ・今年度の具体的取り組み内容について
6. 黒川地域の情報共有化のための里地里山マップ作成ワークショップ
- 7.総括
- 8.閉会のあいさつ

添付資料

- | | |
|-----|---------------------------|
| 資料1 | 第1回 里地里山保全利活用専門部会 名簿 |
| 資料2 | 第1回 里地里山保全利活用専門部会 座席表 |
| 資料3 | 里地里山保全利活用専門部会 第1回専門部会説明資料 |
| 資料4 | 里地里山マップ作成ワークショップ |

以上

第1回 里地里山保全利活用専門部会 座席表



平成26年度
農と環境を活かした
まちづくりの推進

里地里山保全利活用専門部会

第1回専門部会 説明資料



平成26年 6月2日

目次

■麻生区 農と環境を活かしたまちづくり	
01. 農と環境を活かしたまちづくりの推進	4
02. 上位・関連計画	5
03. 実施体制と役割分担	6
04. 各専門部会の関わりと連携効果	7
05. 実施スケジュール	8
■里地里山保全利活用専門部会	
01. 黒川地区等における里地里山資源	10
02. 市民アンケート結果まとめ	11
03. 市民アンケート結果	13
04. 農業者アンケート結果まとめ	16
05. 農業者アンケート結果	17
06. 部会の活動に向けたニーズや課題の整理	19
07. 取組みの方向性（案）	20
08. 取組みの方向性の具体化	21
09. 今年度の試行的取組み案	22
10. 試行的取組みの展開	23
11. 今年度のスケジュール	26



麻生区 農と環境を活かしたまちづくり



- 3 -

1 農と環境を活かしたまちづくりの推進

黒川・岡上・早野周辺地域での課題

農が抱える課題

- 都市農地の再評価と保全策への対応
- 農家・農業後継者の減少
- 農業経営の転換への対応
- 「農」に対する全市的な合意形成

解決の方向性

- かわさき「農」の新生プランにおける推進体制の確立

緑が抱える課題

- 多摩丘陵の保全にむけ、農業政策と緑地保全施策の連携が必要となっている。
- 里地里山環境の保全と「農ある風景」の継承が求められている。

解決の方向性

- 市民協働による地域ぐるみの緑地保全活動の推進

地域が抱える課題

- 第1期区民会議の議論
区特性である「農」を通じた「地域づくり」への活かし方
- 第3期区民会議の議論
市域の緑が43%集積する区の緑の維持管理の仕方及び市民ボランティアなどの力の活用方策

解決の方向性

- 区の資源である農と緑を活かしたまちづくりの推進

地域・関係者間での課題解決への施策検討・計画及び試行実施



黒川地域での変化（地域資源の創出）

- 平成20年に大型農産物直売所「セシサモス」の開所
- 平成24年に明治大学黒川農場の開場

黒川地域連携協議会：平成21年設置（平成25年度改訂）

- 目的：** 明治大学と川崎市が「農業研究・実験機能」、「山林の保全と活用機能」及び「農業体験・交流機能」における連携を通じた地域づくりを推進することを目的とする。
- 組織：** 具体的活動を推進する「農産物等研究専門部会」「地域活性化検討専門部会」「里地里山保全活用専門部会」の3つの部会を立ち上げ、相互連携を図りながらテーマに沿った活動を推進する。

- 4 -

2 上位・関連計画

かわさき「農」の新生プラン (H17~26) 川崎市農業振興計画

■ 川崎市の「農」が抱える課題



■ 基本的な考え方

「農業」 → 「農」 への発展

産業としての農産物の供給を主な目的としてきた「農業」とともに、市民にうおいと安らぎをもたらす多面的な機能、公益的な役割を含めて農業・農地を「農」と表現している。

■ 基本目標

かわさき130万市民
「農」のあるライフスタイルをめざして

- #### ■ 基本施策
- ① 「市民とつくるかわさき農業」の振興
 - ② 「農」に親しむ仕組みの確立
 - ③ 「多面的な機能を発揮する都市農地」の保全と活用
 - ④ 推進体制の確立

3 実施体制と役割分担

黒川地域連携協議会

- ◆ 黒川地域関係者の連携・相互協力を図り、農と環境を活かしたまちづくりを推進
 - ◆ 部会間の調整、黒川地区の農と環境を活かしたまちづくりの方針・計画等の承認
- 【構成】 明治大学農学部、明治大学黒川農場、JAセレサ川崎、神奈川県農政部署、地元関係（地元町内会など）、川崎市建設緑政局、川崎市麻生区、川崎市経済労働局
- 【事務局】 川崎市経済労働局農地課

農産物等研究専門部会

【目的】

将来、農畜産物、林産物及びその他の加工品の栽培や販売などにおける課題を整理し、地域の活性化につながる農産物等の調査・研究を行う。

【役割】

農産加工品の検討や開発、商品化に向けた検討推進等

【事務局】

川崎市経済労働局農地課

地域活性化検討専門部会

【目的】

農や緑、環境を通じた地域の活性化や地産地消の推進につながるイベント等の実施や必要な施設等の検討を行う。

【役割】

地域連携イベントの企画・推進、地域資源の有効活用・PR

【事務局】

川崎市麻生区企画課

里地里山保全利活用専門部会

【目的】

多摩丘陵の里地里山の地域的価値を見出し、里地里山の保全、再生、活用を目指す。

【役割】

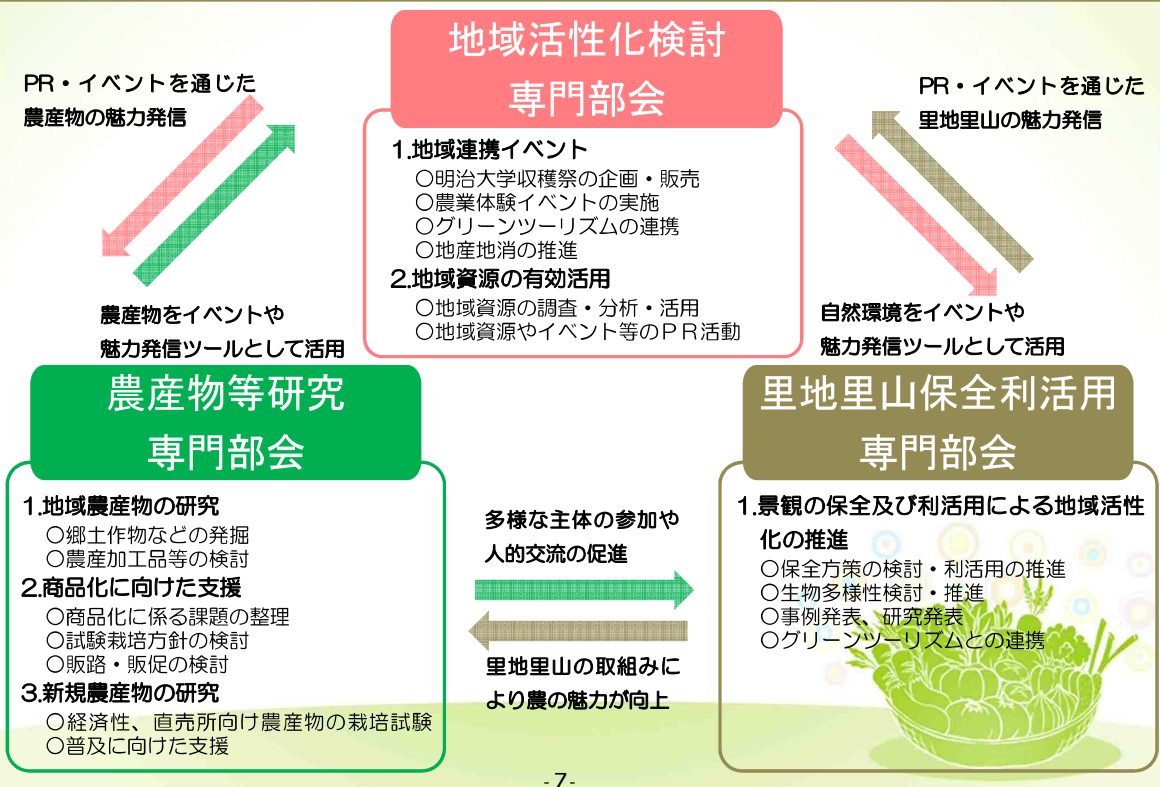
里地里山の保全・再生・活用等の企画・実施

【事務局】

川崎市建設緑政局みどりの協働推進課

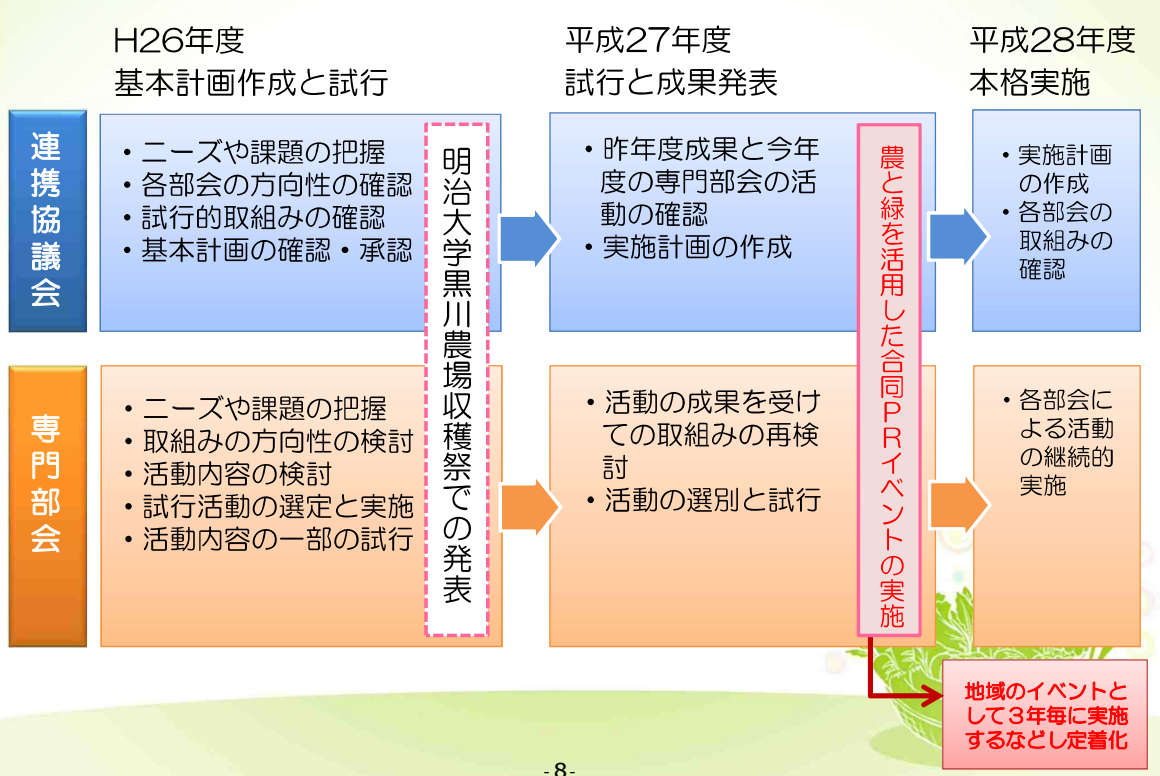
4

各専門部会の関わりと連携効果



5

実施スケジュール



里地里山保全利活用専門部会



- 9 -

1 黒川地区等における里地里山資源

- 緑環境** : 多摩丘陵の一端をなす丘陵地
里山を感じさせるクヌギ、コナラの二次林を主体とした樹林地。
- 緑地** : 特別緑地保全地区面積 約40.7ha（黒川地区内）
川崎市の38%の特別緑地保全地区が存在し、市民による保全管理が行われている箇所もある。
- 動植物** : 生物環境（麻生区内）
谷戸の水辺にモートンイトトンボ、ヤマサナエ、イモリ、ホトケドジョウ等が生息する。
- : 希少植物（麻生区内）
ウラナミアカシジミ、シンラン、タマリユウ、タマノカンアオイ等が生育する。
- 活動施設** : 黒川青少年野外活動センター
親子アウトドア教室、くろかわ森のようちえん、アウトドアクッキングや、様々な体験プログラムの場所と備品の貸し出しを行っている。
- 散策路** : 多摩よこやまの道、柿生の峰をめぐる散歩道、
布田の道 等の市境の散策路
散策路を使って市外から黒川地区を訪れ、里地里山の景観を楽しむ方が多い。



黒川地区の風景



野外活動センターのイベント



黒川海道特緑保の遊歩道

- 10 -

2 市民アンケート結果まとめ (当専門部会関連事項の抽出)

■市民アンケートについて

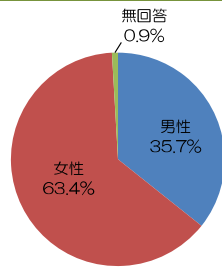
今回の専門部会開催に先駆けて、昨年の明治大学収穫祭において来場者に対し、アンケートを実施した。

実施時期：平成25年11月9日（土）

回答者数：112名（有効回答数111）

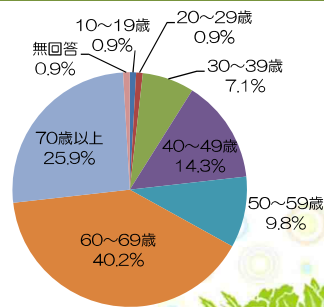
主な設問：収穫祭の評価等、セサモスの認知度と評価等、黒川地区環境の評価等、かわさきブランドの認知度と評価等、今後の期待等

性別構成



男性40名 女性71名

年齢構成



20代以下2名、30代8名、40代16名、50代11名、60代45名、70代以上29名

2 市民アンケート結果まとめ (当専門部会関連事項の抽出)

■アンケート結果の概要(当部会関連事項の抽出)

項目	アンケート	内容
明治大学の自然生態園	評価について(Q7)	約半数の認知度だが自然環境への評価が高く、自然生態園の活用が有効と思われる。
	ボランティアへの参加意向(Q8)	内容次第ではあるが参加希望者が多く、募集をした場合、多数のボランティア参加者が期待できる。
谷戸の環境	谷戸の印象(Q13)	自然の豊かさに対して高評価。里山・農体験も評価あり。谷戸を活用した取組みが有効と思われる。
散策路について	散策路の認知(Q14)	一定の認知がされており、散策路の活用が有効と思われる。
	散策路へのニーズ(Q15)	要望は多岐に渡っている。(トイレがほしい、マップがほしい、休憩所がほしい等) 利便性を高める取組みが有効と思われる。
里山保全活動について	里山保全活動の認知(Q18) 保全活動への参加意向(SQ1)	積極的な希望者が多く、市民参加の里山保全活動について期待できる。
今後の取組みへの期待	期待する取組み(Q19)	里山・農体験への期待が高い。緑関連のイベント開催が有効と思われる。